

佳作 忘れられない家族との思い出



ザナガヤ ガンチメグ
ZANAGAYA GANCHIMEG

国 籍 モンゴル
職 種 介護
実習実施者 社会福祉法人ハインスライフ
監理団体 GTS 協同組合

生まれてから死ぬまで人間はさまざまな人生の課題に直面します。これらの課題をすべて克服しようとすれば「体の力」よりも「心の力」が必要だと思います。朝起きたときのフレッシュな気持ちや、人に出会ったときの気分は、ずっと続きます。たとえば悪いことがおきたとき、どう反応するかは人それぞれだと思います。悪いことがおきても、それは誰にでも起こることだと考える人がもっとたくさんいたらいいのにと私は思います。良いことがおきたとしても誰でも毎日良いことがおこるわけではありません。もし誰かが私に悪いことをするのは嫌だと思ったとき、私はその悪いことを正そうとします。

私にとって一番大切なのは家族です。他の人も家族が一番大切だと思うのではないのでしょうか。自分が母親になって、両親のことをますます理解できるようになりました。母親なら自分の子供のために何でもできます。私はとても疲れたときでも、子供の顔を見れば必ず元気になります。母親とは自分の子供に一番嘘をつく人だとも言われるそうです。なぜ母親が一番嘘つきになるのでしょうか？ 疲れているのに疲れていない。空腹なのになが

空腹ではない。寒いのに寒くない。それが子供のために生きる母親です。子供たちに自分の持っているすべてのものを与える。それが母です。母の愛とは計り知れません。

すべての人生の記憶は、生まれた時から保存され続いています。その中でも特別なことは決して忘れることはありません。私の特別な記憶について、おはなしをします。私が小さい頃「妹と私」はまったく同じ色やデザインでサイズだけが異なる靴を購入していました。私の学校は午前8時に始まります。そのため冬は朝7時に起きて学校に行きます。その時私は5年生でした。私はねむくて片方の足に妹の靴を、もう片方の足に自分の靴を履いてしまいました。私の家から学校までは歩いて10分でした。学校に着くと足が痛いのでクラスメートにわからないように左右の足の靴のサイズを確かめました。そこで右足の靴が妹の靴だとわかりました。

この18年前の特別な思い出は、今でも決して忘れることはありません。なぜ私と妹が同じ色やデザインの服や靴を買ったのかと言えは、よく双子の姉妹のように見えると言われたからです。このようにどんなに人は年をとって、多くのことを忘れてしまっても、家族との思い出だけは忘れません。曲名を忘れてしまっても、小さい時に自然に覚えてしまった歌はどんなに年をとってもまちがわずに歌えます。家族との思い出は、この歌のように、死ぬまで忘れるものではないのです。私にとって忘れられないのは、家族との思い出です。